

# 4-1 縄張りの工夫 横矢掛りガイド

## 1、横矢（横矢掛り）とは、

横矢（横矢掛り）とは、侵攻する敵に対して側面から攻撃する行為を指す。実際には弓矢のみならず鉄砲による射撃などを含む。ヒトの目は顔の正面についているので、前方で展開する敵の行動はつかみやすい。しかし側面で展開する敵の動きを同時に認識し、対処するのは困難である。よって側面からの攻撃は、侵攻する敵に対処する有効な方法といえる。

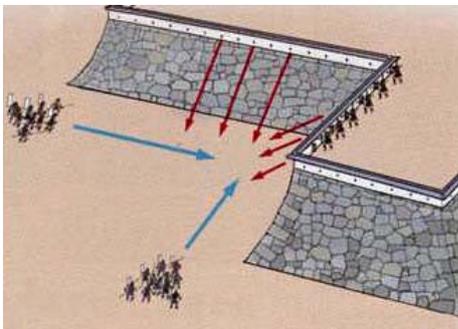
側面だけの攻撃では、十分な効果は期待できない。あくまで正面からの攻撃と併せると一層の効果が得られる。

城郭では敵の側面に攻撃ができそうな部分に石垣・土塁・櫓・塀などを張り出させておく。これを横矢、横矢掛り（よこやがかり）という。「享保13年秋改松本城下絵図」では黒門枳形西側の壘の出っ張り（赤の⇒部分）がそうである。

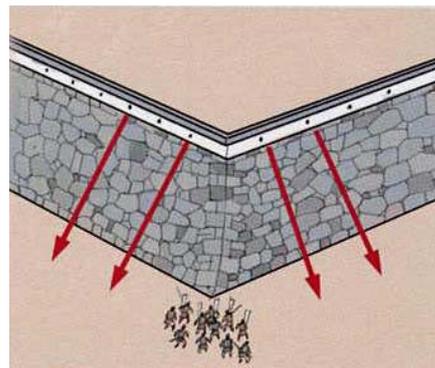


## 2、横矢の機能

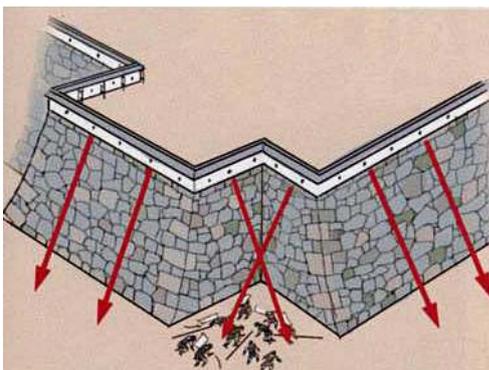
(1) 攻める側もあえて危険なエリアへの接近は避けるのは当然である。



(2) そこで角地部分や壘が長く続く部分で死角になりやすい部分を探す。この角地（かどち）部分から敵の攻撃を受けやすく、また守る側では死角になる。



(3) そこで折れた壘線があると、十字砲火に近い攻撃ができることになる。



(4) 色々な種類の横矢を設定することによって、防衛能を高める。壘線の折れ方や突出の程度、形状から、次のように分類している。

出隅（ですみ） 入隅（いりずみ） 雁行（がんこう）  
横矢枳形 合横矢（あいよこや） 屏風折など

### 3、虎口（こぐち）における横矢



は鶴の首となっていたので、敵の侵攻を阻む役目をし、敵が固まるところに砲火を浴びせることになる。門を突破したとしても、一の門東側に集中する（道筋の行き違い）横矢掛りや石垣土塀から砲火を浴びせる格好となって、敵を減退することが期待できる。

虎口部分では横矢が多く用いられる。それは虎口が堀や土塁が開口した部分に造られるからである。

地続きで城内に連絡するのに行き来しやすい場所である。そこで攻める側は虎口部分に集中して突破を図ろうと考える。虎口に横矢を設定しておけば、敵は横矢の存在に気づかなくても避けることは難しくなる。

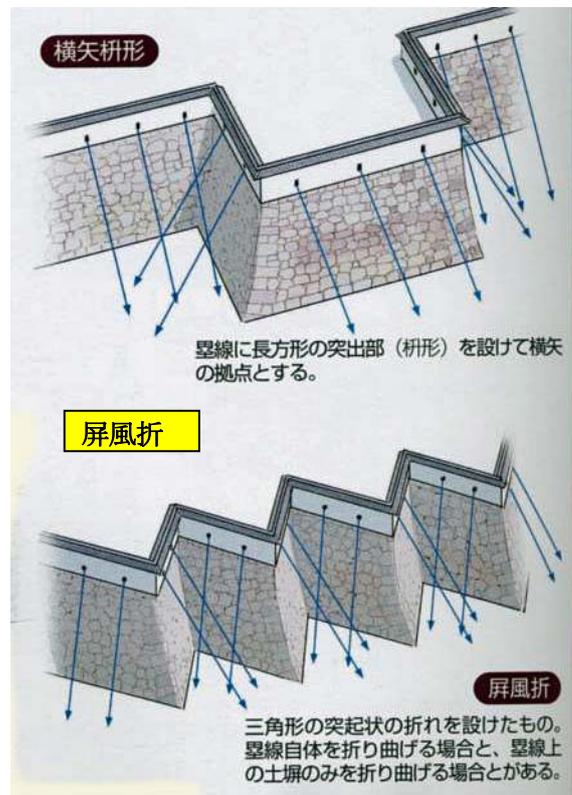
虎口部分の道筋に折れをつけたり、枅形・馬出しなどによって狭くて通りにくくなる。この場所での横矢は格段の効果が期待される。

横矢掛りから松本城黒門枅形をみると、写真のように見える。虎口への道筋がはっきりと見え、土橋

### 4、折塀と屏風折

土塁上に折塀と呼ばれる兵が築かれていた。折塀は直線上に伸びる土塁の所々を鋸（のこぎり）の刃のように折り曲げてものである。直線状に伸びる土塁の対して上部の塀を折り曲げて、横矢を設定したものである。イラストにもあるように、土塁の上の塀を折塀にして、死角をなくすために設定された横矢である。土塁自体を鋸の刃のように折り曲げて、横矢をねらった屏風折も存在した。

松本城の土塀の折れをしてみると、5種類位があって  
 そ **総堀水切土手付近の折塀 イラスト** また壘の随所に



ある平櫓や二の丸土塁上にある5つの隅櫓の戦時における横矢をかける役目を持っていただろうと考えられる（多機能複合施設として）。